

論文番号 215

担 当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題 名 (原題/訳)

The Alcohol Use Disorders Identification Test: an aid to recognition of alcohol problems in primary care patients.

プライマリケア患者のアルコール問題発見の手がかり : AUDIT (Alcohol Use Disorders Identification Test)

執筆者

Allen JP, Reinert DF, Volk RJ

掲載誌 (番号又は発行年月日)

Preventive Medicine 2001; 33(5): 428-433

キーワード

問題飲酒のスクリーニング、AUDIT (Alcohol Use Disorders Identification Test)、プライマリケアにおける短期的な (アルコール乱用に対する) 介入

要 旨

背 景

アルコールの不適切な飲用は広範囲の健康問題と関連する。幸い紙と筆記用具のみを用いる簡便な Alcohol Use Disorders Identification Test (AUDIT) は、効率的、効果的に初期の段階のアルコール乱用を把握できると同時に、短期的なアルコール乱用に対する介入を補助する情報を医師に提供することができる。

対象と方法

この記事の目的は Alcohol Use Disorders Identification Test (AUDIT) に関する既存の報告を簡潔に要約することと、そのプライマリケアの現場での短期的な介入における役割を明らかにすることにある。2000年までの Alcohol Use Disorders Identification Test に関する科学的な文献をレビューし、それらをまとめてプライマリケア現場でのこのテストの使用と関連する問題を記述した。

結 果

DSM-III-R に基づく臨床的面接 (Structured Clinical Interview for DSM-III-R)、改訂版臨床面接法 (Diagnostic Interview Schedule Revised)、構造的国際診断用面接 (Composite International Diagnostic Interview)、大量飲酒 (>14 drinks/week または 5 drinks/day at least monthly) 等をゴールドスタンダードにした時の感度度は 0.51~0.96、特異度は 0.73~0.96 であり、その他の手法の感度度 0.19~0.94、特異度 0.68~0.99 より良好であった。

結 論

Alcohol Use Disorders Identification Test は非常に高い感度度と特異度を示し、他の自記式スクリーニングテストよりも有用であると考えられた。

追補 ; Alcohol Use Disorders Identification Test (AUDIT) 注) 詳細は Appendix 参照.

1. どれくらいの頻度でアルコール飲料を飲むか?、 2. 通常 1 回にどれくらいの量飲むか?、 3. 一度に 6 杯以上飲むか?、 4. 飲むのをやめることができなかつたことがあるか?、 5. 普通は可能な行為がアルコールのせいできなかつたことがあるか?、 6. 迎え酒をしたことがあるか?、 7. 飲酒で罪悪感を感じたり後悔したことがあるか?、 8. 飲む前の記憶がなくなつたことがあるか?、 9. 飲酒で自傷他害したことがあるか?、 10. 家族や友人、医療関係者等に飲酒について注意されたことがあるか?